

和牛ブランド化、道の駅を視察

輝くふるさと常任委員会 研修レポート in 沖縄

～南国の地で町の課題の解決策を探る～

輝くふるさと常任委員会（鈴木満委員長）は、11月6日から9日、沖縄県石垣市で石垣牛のブランド化、糸満市で日本最南端の道の駅いとまを視察。さまざまな取り組みを研修し、町の課題の解決策を探りました。

石垣牛ブランド

石垣市は、沖縄本島から南西410キロ^ロに位置した石垣島にある日本列島最南端の市で、人口約4万9000人、主な産業は畜産業と観光業です。

石垣牛は、13年の沖縄サミット晩餐会で食され各国首脳が絶賛したことから一躍脚光を浴びました。その後、商標「石垣牛」が特許庁で登録が許可されたことから需要が高まり、飼育頭数の拡大が図られました。しかし、品質に差があることから「石垣牛」の定義の位置付け及び流通体系の確立と品質管理を構築する

ための取り組みがなされ、ブランドとして確立しました。石垣牛の人気もあり、年間130万人余りの観光客が訪れています。生産農家の意欲も高く、暖地型牧草を主とした輸入粗飼料に依存しない自給型の畜産として、生産拡大と経営安定化に取り組んでいます。

道の駅いとまん

「道の駅いとまん」は沖縄本島の糸満市にある日本最南端の道の駅です。敷地面積は約3万平方メートルで沖縄県最大を誇ります。地元食材を使用した飲食店や工芸品、特産物を販売している遊食楽（ゆく

ら）、新鮮野菜を販売する農産物販売所、市内外から水揚げされた水産物を販売するお魚センター、カフェや精肉販売を行う障害者就労施設の4施設からなっています。

年間利用客は291万人、年間売上約24億円で、そのうち農産物販売所の方は162万人、16億円となっています。農産物販売所「ファーマーズマーケットいとまん」では、県外産の農産物も販売しており、多くの買い物客で賑わっています。

姉妹町村物産展

最終日、姉妹町村である北中城村のイオンモール沖縄ライカムで開催された葛巻町・北中城村合同物産展を訪問しました。物産展は、本町のくず

まき高原牛乳などの乳製品やくずまきワインの販売、北中城村の特産品アーススープなど多種多様な店舗が10店以上出店、両町村の情報発信コーナーも設置され、多くの来客で盛大な開催でした。



多くの人で賑わう合同物産展